

技術屋は、
世界が変わる
場所にいる。
ULVAC

ULVAC REPORT

第122期 事業報告書 2025年7月1日～2026年6月30日

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、
真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、
産業と科学の発展に貢献することを目指す。

2050年にありたい姿

真空技術で世の中のためになる価値をパートナーとともに生み出し、
人と地球の未来に貢献し続けている企業

〈経済成長・社会的豊かさ〉最先端の技術開発でより安全・安心、
かつ豊かで便利な社会の実現に貢献する

〈人の幸せ〉すべての人が幸せな生活を送るための社会づくりに貢献する

〈環境〉地球にやさしく持続可能な社会づくりに貢献する

Vision 2032

未来につながる「可能性の場」であり続ける

マテリアリティ

- 真空技術をコアとしたイノベーションの創出・共創の推進
- 多様な人財の育成と活躍推進・レジリエントな組織づくり
- バリューチェーンにおける人権尊重・責任ある行動
- 持続可能な地球環境への貢献

At a Glance

連結決算ハイライト

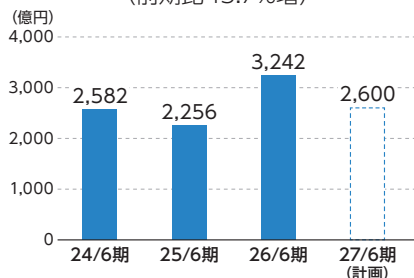


決算に関する詳細情報は当社ウェブサイト「株主・投資家情報」からご確認ください。



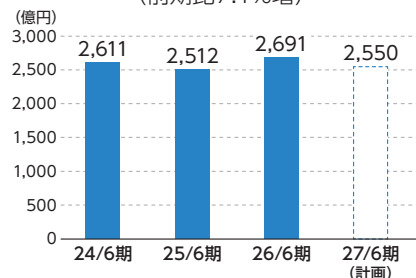
受注高

3,242億円
(前期比43.7%増)



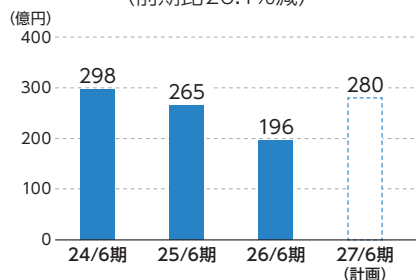
売上高

2,691億円
(前期比7.1%増)



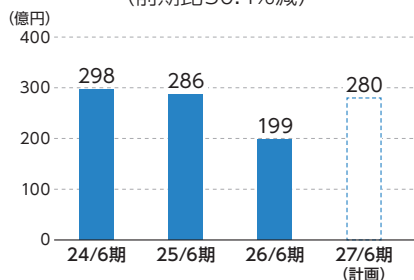
営業利益

196億円
(前期比26.1%減)



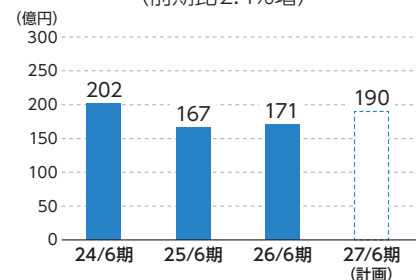
経常利益

199億円
(前期比30.4%減)

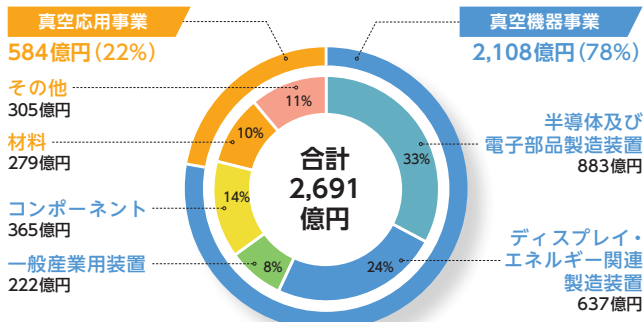


親会社株主に帰属する当期純利益

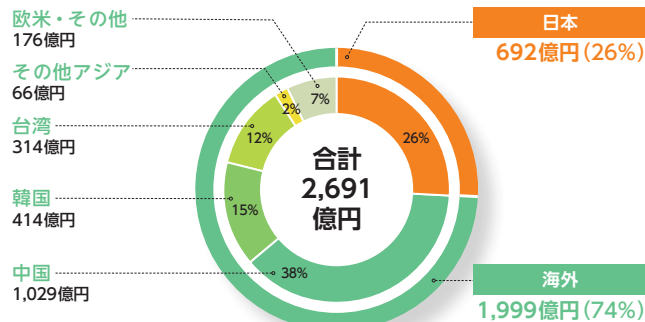
171億円
(前期比2.4%増)



事業別売上高 (2026年6月期)



地域別売上高 (2026年6月期)



各項目数値の四捨五入により、合計値が一致しない場合があります。

新経営体制の推進力で変革を完遂、 利益拡大フェーズへ本格移行

代表取締役社長執行役員

清田 淳也

2026年7月1日付で社長執行役員を拝命し、同年9月29日開催の定時株主総会ならびに取締役会の決議により代表取締役に就任しました清田淳也です。株主の皆様には、経営の舵取りにあたりご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1989年に当社へ入社した私は、研究開発部門を中心に経験を重ね、近年は先進技術研究所長、開発本部長、コンポーネント事業本部長などを務めてまいりました。過去9年間にわたり経営トップとして当社グループの発展に尽力してきた岩下前会長の後を引き継ぎ、さらなる企業価値・社会価値の拡大と持続的成長の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

2026年6月期の営業状況

生成AIの拡大を背景に過去最高の受注高を確保した一方、利益面は一過性要因により減益となりました。

中長期経営計画「バリューアッププラン」を策定、始動した2026年6月期は、生成AIの急速な普及を背景とする半導体関連市場の拡大を受け、受注高・売上高を伸ばしましたが、利益面は一過性費用の計上などにより前期を下回りました。

受注高は、半導体製造装置及びディスプレイ製造装置、レアアース関連ビジネスを含む一般産業用装置が大きく増加し、過去最高の3,242億円(前期比43.7%増)を確保しました。

売上高は、半導体及び電子部品製造装置が日本や中国のパワーデバイス投資の反動減を受けて減少したものの、有機EL基板の大型化に伴う設備投資や改造案件などによりディスプレイ製造装置が増加し、コンポーネントや一般産業用装置、材料も堅調に推移したことから、期初予想を上回る2,691億円(同7.1%増)となりました。

ただし利益については、EV関連費用(貸倒引当金や追加コストなど)の計上や半導体製造装置の一部大口案件における売上の期ずれといった一過性要因が生じたため、営業利益196億円(前期比26.1%減)、経常利益199億円(同30.4%減)、親会社株主に帰属す

る当期純利益171億円(同2.4%増)となりました。営業利益率は前期の10.6%から7.3%へ、ROEは自己資本の増加により7.5%から7.4%へそれぞれ低下しました。

バリューアッププランの進捗

計画を総点検した上で、必要な変革を断行し、今後の成長に向けた基盤整備を進めてまいります。

「バリューアッププラン」は、半導体・電子分野を中心とする事業ポートフォリオへの転換を加速すべく、計画2年目(2027年6月期)までに事業改革を完遂し、経営資源の最適化を推し進めるとともに、成長戦略と生産改革を通じてグループ全体の成長力・収益力を高めていく6年間の取り組みです。財務目標は、計画最終年度(2031年6月期)における「売上高3,600億円(うち半導体・電子分野で60%以上=2,160億円以上)」「営業利益790億円(営業利益率22%)」「ROE16%」を掲げています。

一方、当社グループ事業を取り巻く環境は、「バリューアッププラン」を策定した2025年8月からさらに変化し続けており、特にAI・データセンター関連ビジネスが想定以上のスピードで拡大しています。今後は、同ビジネスにおいて、リソースを集中させ、実績を積み上げながら全方位で市場を捉え、戦略的に成長を実現していく考えです。



計画初年度の2026年6月期は、前述の通り受注高が過去最高となり、半導体製造装置に関しては、市場全体の成長ペースを大きく上回る成果を収めることができました。事業改革では、ディスプレイ製造装置に関する見直しや低採算事業の整理が進展しました。生産改革では、モジュラーデザインの推進により設計工数を20%削減し、約10億円の変動費を圧縮するなど、具体的な効果が始まっています。

一方で2026年6月期は、当社グループの課題があらためて浮き彫りとなった1年でした。受注高は大幅に増加したものの、売上高及び利益の伸びは限定的なものにとどまりました。その主な要因は、部材供給リスクが顕在化したことと、製造リードタイムの短縮が道半ばであること、すなわち生産面の制約にあると考えています。獲得した受注を確実に売上・利益へ転換できなければ、「バリューアッ

ププラン」が目指す成長力・収益力の向上は実現が困難となります。

以上の認識を踏まえ、2027年6月期は「バリューアッププラン」を総点検した上で、必要な変革を断行し、2028年6月期以降の成長に向けた基盤を早期に整えます。

成長戦略では、AI・データセンター市場を戦略テーマとして定義し、全方位的に成長機会として取り込むべく、当社グループが持つ強みを見極めながら、重点分野へ経営資源を集中投入します。そして先端・高付加価値案件の構成比を高めていくことで、高い成長性と収益性の両立を図ります。

事業改革では、2026年6月期に事業売却・縮小や生産拠点再構築などの取り組みを進めましたが、収益改善効果が限定的にとどまったことから、新経営体制のもとで改革をさらに加速する方針です。2027年6月期中に低採算事業の縮小・撤退を完遂させると同時に、本社機能・固定費構造・事業ポートフォリオを再点検します。

そして最重要課題である生産改革では、サプライヤー戦略を見直し、部材調達リードタイムの短縮を図りつつ、各拠点の物流倉庫を集約・自動化し、物流効率を高めます。また生産能力の拡充に向けて、半導体・電子関連の主要製造拠点である九州工場の増強投資を検討するとともに、レアアース関連については、茅ヶ崎工場での生産を開始する予定です。

2027年6月期の見通し

事業改革の影響により減収となる一方、高利益率案件の構成比上昇により増益を見込んでいます。

2027年6月期の受注高は、事業改革の実行に伴う影響やディスプレイ製造装置の反動減を織り込み、大幅に増加した2026年6月期の実績に対し、減少を見込んでいます。その中でも半導体製造装置の受注は、高水準を継続する見通しです。

売上高についても、同様に事業改革の実行やディスプレイ製造装置の反動減が影響し、減収となる見通しですが、高利益率案件である半導体・レアアース関連の売上構成比が上昇し、事業ミックスの改善が進むと予想しています。

営業利益については、2026年6月期における減益の一過性要因が解消される中で、事業売却などによる利益の減少が生じるものの、上述の高利益率案件が増益に貢献する見通しです。

以上を前提として2027年6月期の連結業績は、受注高2,600億円(前期比19.8%減)、売上高2,550億円(同5.3%減)、営業利益280億円(同42.9%増)、経常利益280億円(同40.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益190億円(同11.2%増)を予想しています。

株主の皆様にお伝えしたいこと

強固な基盤を築き上げ、AI・データセンター市場の成長を確実に取り込み、収益力を高めてまいります。

株主の皆様への利益還元につきましては「配当性向35%以上」を目途とする業績連動型配当を基本方針としています。2026年6月期の期末配当は、減益の結果を踏まえつつ、株主還元重視の観点から1株当たり152円(前期比12円減)、配当性向43.8%とさせていただきます。2027年6月期の期末配当は、1株当たり152円、配当性向39.4%を予定しています。

私たち新経営陣は「バリューアッププラン」に対し、計画を確実に実行し、財務目標の達成に向けて強い覚悟を持って臨んでいます。2027年6月期は、事業改革と生産改革を徹底し、今後の成長を支える強固な基盤を築き上げます。そしてその盤石な基盤のもと、当社グループが持つ技術的優位性を最大限に発揮し、AI・データセンター市場の成長をしっかりと取り込むことで、収益力を高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、アルバックが目指す未来への飛躍にご期待いただき、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年6月期は、AI需要の拡大を背景に受注高が過去最高を記録しました。一方で顕在化した生産・供給面の課題に対し、今期は総点検・変革を断行し、28年6月以降の本格的な利益成長へ向けた強固な基盤を築いてまいります。

基本方針・目指す姿

～半導体・電子分野を中心とした事業ポートフォリオの選択と集中～

重点施策

成長戦略

事業改革

生産改革

■ 中長期財務目標

	2025/6期 通期実績	2026/6期 通期実績	2028/6期 中間目標	2031/6期 目標
売上高	2,512億円	2,691億円	2,600億円以上	3,600億円
営業利益	265億円	196億円	390億円以上	790億円
営業利益率	10.6%	7.3%	15%	22%
ROE	7.5%	7.4%	10%	16%

25/8策定時からの外部環境変化

フィジカルAIの市場成長期待も、足元ではAI・データセンター関連ビジネスが急速に拡大

初年度の成果	
成長戦略	● 受注高3,242億円、過去最高を達成 ● 半導体は市場を大きくアウトパフォーム
事業改革	● ディスプレイ関連事業・低採算事業整理 ● 生産拠点再編
生産改革	● モジュールデザイン推進 ● 設計工数20%削減／変動費10億円圧縮

バリューアッププラン具現化のために

AI・データセンター関連ビジネスにリソースを集中させ、全方位で市場を捉え、戦略的に成長を実現

課題	
業績面	● 受注高の成長に対し、売上高・営業利益の成長が限定的に
生産面	● 部材供給リスクが顕在化 —— サプライチェーン上の制約が表面化 ● 製造L/T（リードタイム）の短縮は道半ば —— 生産能力に制約
受注を確実な売上・利益成長へ転換できていないことが、収益性向上に向けた明確な課題	

重点施策の取り組み

成長戦略

- AI・データセンター市場の急速な拡大を成長機会と位置付け、重点的に事業展開を推し進める

事業改革

- 事業売却・拠点再編等は着実に進展した一方、収益改善効果が限定的。新体制の下、本社機能・固定費構造・事業ポートフォリオ改革を再定義し、事業改革を加速する

生産改革

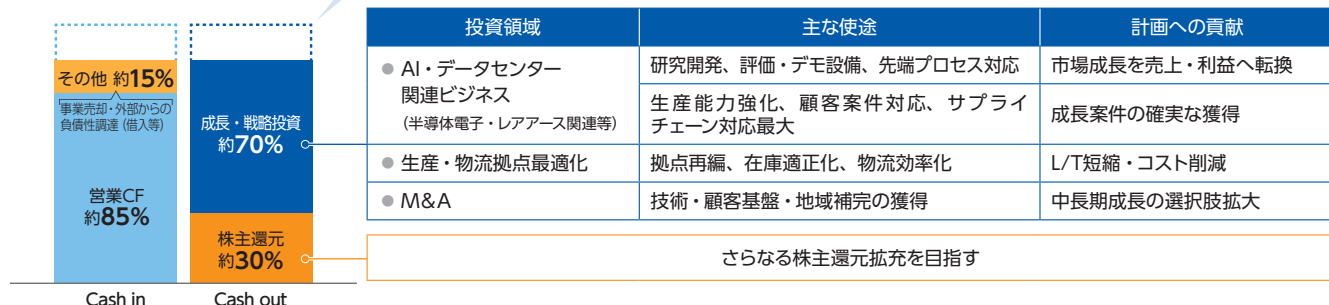
- 部材供給・生産制約の早期解消に向けて、生産体制全体を抜本的に見直し、売上・利益の最大化を最優先で推進

キャピタルアロケーション

- AI・データセンター領域の収益機会を最大化すべく、市場の成長スピードを凌駕する成長投資及び集中的な生産拡充を実行する。さらに機動的な追加投資も視野に入れ、確実な利益成長へと繋げる

キャピタルアロケーション

(6か年累計：26/6期～31/6期)



取締役



代表取締役社長執行役員
清田 淳也



代表取締役副社長執行役員
近藤 智保



取締役
青木 貞男



取締役
島田 鉄也



取締役 (社外)
西 啓介



取締役 (社外)
内田 憲男



取締役 (社外)
石田 耕三



取締役 (社外)
中島 好美



取締役 (社外)
山川 功

監査役



監査役 (常勤)
森尻 裕二



監査役 (常勤)
岡山 智彦



監査役 (社外)
宇都宮 功



監査役 (社外)
本田 宗哉

執行役員

執行役員
高橋 信次

執行役員
磯 佳樹

執行役員
岩井 隆弥

執行役員
申 周勲

執行役員
岩井 治憲

執行役員
楊 秉君

執行役員
呉 東嶸

執行役員
高橋 明久

執行役員
Eric Ries

会社データ／株式の状況

会社概要 2026年6月30日現在

商 号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商 標	ULVAC
本 社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設 立	1952年8月23日
資 本 金	20,873,042,500円
従業員数	1,483名 (連結5,613名)

株式の状況 2026年6月30日現在

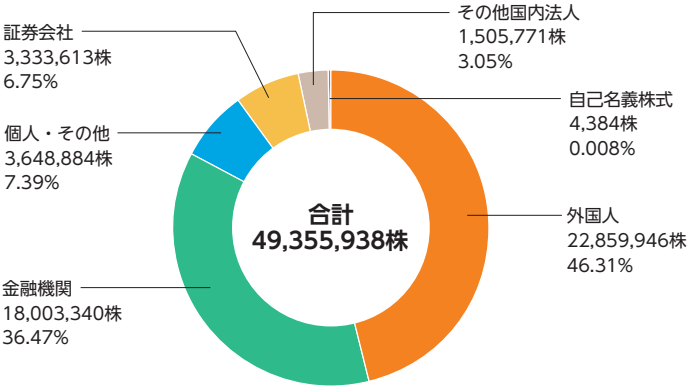
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	49,355,938株
株主数	12,328名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,600	15.40
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,249	8.61
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS-GLOBAL TECHNOLOGY POOL	3,690	7.48
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,791	3.63
JPモルガン証券株式会社	1,355	2.75
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	875	1.77
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	727	1.47
JP MORGAN CHASE BANK 385781	722	1.46
株式会社みずほ銀行	639	1.29

(注)持株比率は自己株式(4,384株)を控除して計算しております。

所有者別株式数



株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・休日を除く)

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求
ホームページアドレス
<https://www.smbt.jp/personal/procedure/agency/>

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金のお受け取り方法について

配当金を配当金領収証でお受け取りの株主様には、確実に配当金をお受け取りいただける預金口座や証券会社の口座への振込みによる配当金のお受け取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。

IRカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	中間期 決算発表			第3四半期 決算発表			通期 決算発表			第1四半期 決算発表	

定時株主総会

TOPICS

2025年12月

TSMCより「2025 TSMC Excellent Performance Award」を受賞
世界的な半導体メーカーから評価を受け、同賞を受賞

2026年1月

ULVAC KOREA平澤工場がRBA監査でGREEN等級を取得
Samsung ElectronicsのRBA基準に基づく第三者監査でGREEN等級を取得

2026年4月

次世代半導体パッケージ開発「US-JOINT」が本格稼働
日米12社が連携し、先端半導体パッケージ技術の研究開発を加速

2026年5月

レアアース磁石向け真空溶解炉の国内生産体制構築を発表
欧米を中心とした需要拡大に対応し、受注は前期比約3倍を見込む

2026年6月

2025年度JVIA表彰で大賞を含む3賞を受賞
希釈冷凍機、XPS/HAXPES装置、校正技術の3件が評価

2026年7月

新ブランドメッセージを策定
「技術屋は、世界が変わる場所にいる。ULVAC」を掲げ、社内外への情報発信を強化

本事業報告書に記載されている当社の現在の計画・戦略及び予測については、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は様々な要因により本事業報告書の内容とは異なる可能性のあることをご承知おください。

ULVAC 株式会社アルバック

本社・工場
〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
TEL.0467-89-2033

